

# 1. インドネシアの看護基礎教育課程における 教育スキル強化（高齢者看護）事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

## 【現地の状況やニーズなどの背景情報】

インドネシアは、都市部の核家族化や地方格差の中で高齢化が進展し、看護の役割が一層拡大している。2018年から老年看護学が正式に導入され、高齢者への看護実践能力の基盤となる知識・技術の習得、倫理観の涵養、看護教育の教授法、教育と臨床が連携した実習指導スキルの向上が求められている。COVID-19の影響で臨地実習が困難となり、学内・オンライン実習を効果的に行うことが課題になっている。

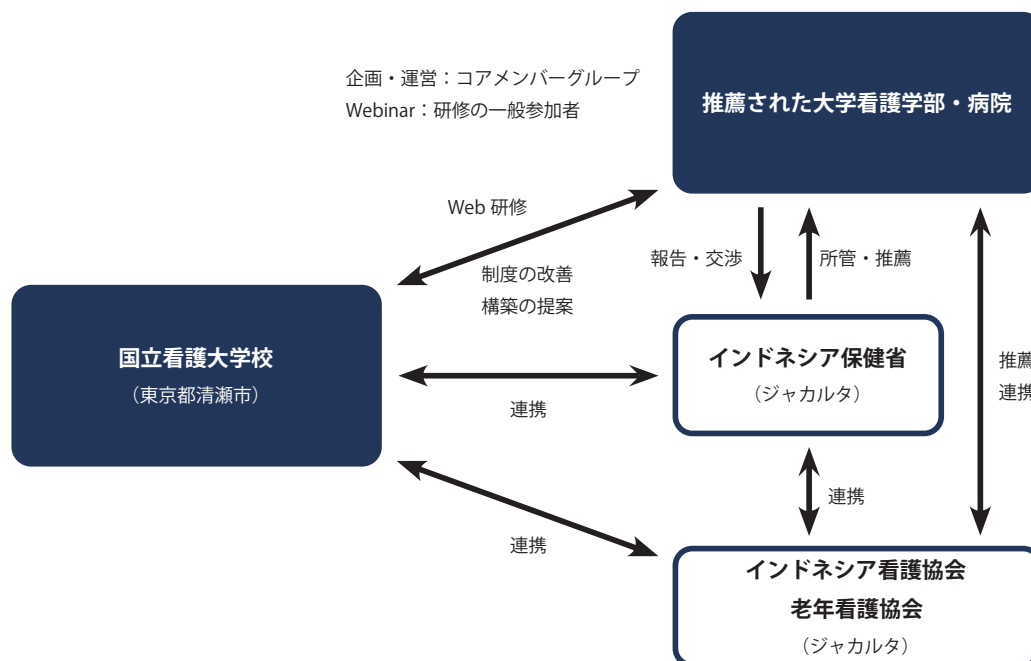
## 【事業の目的】

インドネシアにおける看護基礎教育機関にて、看護学生の講義・演習・実習を担当する大学教員・実習指導者等を対象にした研修を行い、より効果的な教授法や実習指導のスキル獲得を目指す。

本年度は現地ニーズの調査・協議のためのWeb会議を行い、それに基づくWeb研修を行い評価する。その結果に基づき研修を次年度に向けて計画する。これにより、同国の老年看護基礎教育の教授法スキル、特に実習指導スキルの質向上に資する。

## 【研修目標】

- ・ 老年看護学実習における実習指導者・教員の教授法および指導スキルが向上する。
- ・ 実習指導者・教員が臨地実習の代替となる学内・オンライン実習の教育手法の選択肢、長所短所を理解し、活用する。



インドネシアの看護基礎教育課程における教育スキル強化事業（高齢者看護）について発表します。

事業名はインドネシアの看護基礎教育課程における教育スキル強化事業（高齢者看護）、実施主体は国立看護大学校、対象国はインドネシア共和国でした。

対象医療技術等は、②医療施設におけるマネジメント・人材開発として、看護学生の講義・演習・実習を担当する大学教員・実習指導者等を対象とした、老年看護学における効果的な教授法や実習指導に関する研修でした。また、④注目を集めつつある国際課題：高齢社会への対応に関する研修でした。

事業の背景です。インドネシアは、都市部の核家族化や地方格差の中で高齢化が進展し、看護の役割が一層拡大しています。その中で、JICAのプロジェクト2014-2017の後押しもあり、2018年から老年看護学が正式にカリキュラムに導入されました。しかし老年看護学は緒に就いたばかりであり、高齢者への看護実践能力の基盤となる知識・技術の習得、倫理観の涵養、看護教育の教授法、教育と臨床が連携した実習指導スキルの向上が求められています。

また今年度は特に COVID-19 の影響で臨地実習が困難となり、学内・オンライン実習を効果的に行うことが課題になっていました。

今回の事業の目的は、インドネシアにおける看護基礎教育機関にて、看護学生の講義・演習・実習を担当する大学教員・実習指導者等を対象にした研修を行い、より効果的な教授法や実習指導のスキル獲得を目指すこととしました。本年度は現地ニーズの調査・協議のための Web 会議を行い、それに基づく Web 研修を行い評価しました。その結果に基づき研修を次年度に向けて計画することとしました。これらにより、インドネシアの老年看護基礎教育の教授法スキル、特に実習指導スキルの質向上に資することを目指しました。

本事業の実施体制は、この図の通りです。国立看護大学校が実施主体となり、インドネシアの保健省および看護協会、その傘下の老年看護協会と連携しました。また、保健省・看護協会等で推薦された、あるいは自薦の大学看護学部・病院のメンバーを対象とした Web 研修を行いました。

本研修は、研修を企画・運営するコアメンバーのグループで 10 回以上会議を開催して準備・実施・評価しました。また、本学とコアメンバーおよびインドネシアの老年看護協会と連携し、Webinar の一般参加者に研修を実施しました。

研修の目標は、

1. 看護学生の実習指導者の老年看護学実習における実習指導者・教員の教授法スキルが向上すること、
2. 学生実習指導者がオンライン教育の手法を理解し、活用することとしました。

2020年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
方法(期間)					Web会議 (9/20)	Web会議 (10/25)	Web会議 (11/15, 22, 29)	Web会議 (12/20)	Web会議 (12/10, 17, 22, 30) 2-Day Webinar (Day1: 1/24, Day2: 1/31)	Web会議 (2/7)
参加者	JICA関係者と連絡調整 コアメンバーの選定				日本人専門家7名+補助員2名 CP専門家10名			日本人専門家7名+補助員2名 CP専門家10名		
研修会議内容	準備作業				● 研修企画・準備 ● 研修方向性の検討 ● 南国プレゼンテーションによる現状共有 ● ニーズ・サーベイ ● 課題の抽出 ● 研修目標設定			● 研修企画・準備 ● 運営/技術事項整備など	● Webinar ● IDN 実習指導者 Day1: 179名/Day2: 173名 (修了証154名)	● Webinar ● NCNUにおける看護学実習(老年/成人) ● 講義: IDNにおける老年看護学 ● グループ・ディスカッション ● プレゼンテーション

今年度1年間の事業内容は、この表の通りです。5月から8月は、コロナ下における本学の授業（講義・演習・実習）をすべてオンライン化し、あるいは学内での実習に切り替えるための膨大な作業が発生しました。その間、日本およびインドネシアの JICA 関係者とメール・電話で連絡し、コアメンバーを選定するなど、準備作業を進めました。

9月からは定期的に毎月、多い時は毎週や隔週で Web 会議を開催し、

コアメンバー（カウンターパート CP 専門家）と日本の専門家が参加しました。Webinar 研修を1月に開催する方向で、ニーズサーベイを行い、課題の抽出、研修目標の設置恵を行いました。

1月下旬の1/24と1/31の2日間にわたって Webinar を開催し、日本の専門家およびカウンターパートの専門家が講師となって講演を行いました。また、グループディスカッションとプレゼンテーションも行いました。終了後には評価の会議を2/7に開催し、今年度の事業を終了しました。



開催したWebinarのポスター

こちらが、開催した Webinar の案内ポスターです。左側に本学からの講演、右側にインドネシアからの講演を配置しています。ロゴは、開催に関わったコアメンバーの所属する各大学および関連病院のもので

Time (JPN)	Content 内容	Language	Min.
7:45- (9:45)	Registration 参加登録		15
8:00 (10:00)	Briefing	Interpretation, IDN-JPN	10
8:10- (10:10)	Opening remarks 開催挨拶 Dr. Tomoko Inoue, President, NCNU; Bapak. Harif Fadhilah, S.Kp., SH., M.Kep., MH	Interpretation, IDN-JPN	20
8:30- (10:30)	1. Introduction: Background of this project プロジェクトの経緯 Prof. Watanuki, NCNU 総務長兼老年看護学教授	Subtitle in Indonesia	20
8:50 (10:50)	Break		10
9:00- (11:00)	2. Preparation, implementation and evaluation for Clinical practice 実習指導・計画の準備・評価 3. Nursing practice teaching method in Online, Offline and blended 看護学実習(臨地/オンライン/ブレンド)の方法とその最適化、および考慮点 Dean Iino, Asst Prof. Nagaoka, NCNU 監学学部長・民間成人看護学助教授	Subtitle in Indonesia C&A with interpretation	50
10:30 (12:30)	Break		10
10:40- (12:40)	4-1. Gerontic Nursing in NCNU 国立看護大学校の老年看護学実習(1) Assoc Prof. Otake, Instructor Matsuoka, NCNU 大竹老年看護学准教授・松岡助教授	Interpretation, IDN-JPN	60
11:40 (13:40)	Lunch		50
12:30- (14:30)	4-2. Gerontic Nursing in NCNU 国立看護大学校の老年看護学実習(2) Assoc Prof. Otake, Instructor Matsuoka, NCNU 大竹老年看護学准教授・松岡助教授	Interpretation, IDN-JPN	60
13:30 (15:30)	Break		10
13:40- (15:40)	4-3. Gerontic Nursing in NCNU 国立看護大学校の老年看護学実習(3) Assoc Prof. Otake, Instructor Matsuoka, NCNU 大竹老年看護学准教授・松岡助教授	Interpretation, IDN-JPN	60
14:40- (16:40)	Instructions for evaluation and collecting questions and comments From	Interpretation, IDN-JPN	20

Webinar の第1日目は2021年1月24日(日曜日)で、午前中に当該プロジェクトの概要説明、実習指導計画の準備・評価、看護学実習の臨地・オンライン・ブレンドの方法とその最適化、考慮点の講演がありました。その後、老年看護学実習の実施について、3セッションに分けて具体的に説明しました。

Time (JPN)	Content 内容	Language	Min.
7:45- (9:45)	Registration 参加登録		15
8:00- (10:00)	Recap and address to the questions from DAY1 一日目の復習および質疑応答	Interpretation, IDN-JPN	50
8:50- (10:50)	1. Academic and Professional phase of Gerontic Nursing Education in Indonesia インドネシアの老年看護学教育:アカデミックおよびプロフェッショナルフェーズ Prof. Dra. Junita Sahar, S.Kp., M. App. Sc.	Interpretation, IDN-JPN	75
10:05 (12:05)	Break		15
10:20 (12:20)	2. Preparation, Implementation, and Evaluation of Clinical Practice of Gerontic Nursing in Indonesia インドネシアの老年看護学実習の準備・実施・評価 Dr. Shinya Silawati, S.Kp., M.Sc.	Interpretation, IDN-JPN	75
11:35 (13:35)	3. Discussion by country 各国での話し合い what you learn, suggestions, way forwards 学んだこと、提案、活用		65
12:40 (14:40)	Lunch 休憩		40
13:20 (15:20)	4. Presentation and discussion 発表と討議 presentation by group (10 min 1 group from IDN and JPN), discussion (20 min)	Interpretation, IDN-JPN	60
14:20 (16:20)	5. Quiz and Prize	Interpretation, IDN-JPN	30
14:50 (16:50)	Instructions for evaluation and certification	Interpretation, IDN-JPN	5
14:55 (16:55)	6. Closing remarks Prof. Watanuki, NCNU, project team lead 総務長兼老年看護学教授	Interpretation, IDN-JPN	5

Webinar の第2日目は2021年1月31日(日曜日)で、午前再保に前週の講演内容への質問に対する回答を行いました。その後、インドネシア側から、老年看護学教育の構成内容(大学4年間のアカデミックフェーズと1年のプロフェッショナルフェーズ)、老年看護学実習の準備・実施・

評価について、感染状況をふまえた工夫と課題・対策についての説明がありました。その後、2日間の講演を受け、各国の少人数グループに分かれて話し合いをしました。学んだこと（両国の共通点や相違点）、学びから自施設で活用できることおよびその理由、そしてそれらをどのように自施設に取り入れるかを話し合い、発表し共有しました。



これらの写真は、左上と左下が、Webinarの配信室の様子です。講師を挟んで、逐次通訳者が両脇に座って順次通訳をしました。講演の通訳のほか、口頭やチャットの質問への対応のため、通訳者と事務局スタッフを複数名配置しました。

右上はWebinarの画面の様子です。

右下は、Webinarの理解度を問うクイズを行った時の回答状況を表す管理者画面の例です。



インドネシア看護協会の、看護師の5年毎の免許更新に必要な継続教育単位25単位のうち、6単位の教育として認定された。

2日間のWebinarは、インドネシア看護協会における、看護師の5年毎の免許更新に必要な25単位のうち、6単位の教育として認定されました。こちらが、その修了証のサンプルです。

### Webinar発表等の概要と考察

- 日本NCNU:
  - 感染状況によりオンラインと学内をミックスした実習方法が展開
  - 高齢者施設内の日常生活（住環境、高齢者の安全を守る取り組み、高齢者の様子など）、看護師の役割（健康状態の観察、家族への支援、エンドオブライフ期の看護）
  - 高齢者の事例による看護過程など
  - 学生のポジティブな反応：施設見学したような体験というポジティブな意見
  - 学生のネガティブな反応：実際の患者が想像できず、コミュニケーションや看護援助への不安
  - 学内で病院施設の環境を作り、事例の模擬患者を教員が担当、学生が技術演習を実施
- インドネシア:
  - 感染症により臨地・学内も困難であり完全オンラインの実習方法が展開
  - オンラインで複数のソーシャルメディアを活用、動画の活用やチュートリアルなど
  - 家族や自宅近くに居住する高齢者を対象として看護過程を展開
  - 未達成のコンピテンシーを特定し、状況に応じて強化するようにスケジュール
- 両国共通の課題:
  - オンラインでも工夫により、看護過程を用いた思考過程や判断力のトレーニングは十分可能
  - 自宅での物品を使用したオンライン演習では、実際に身体を使う看護技術の習得が困難
  - オンライン上の学生の到達度の評価が難しい
- オンライン実習の対策:
  - よりリアルに病院の環境や看護の実際を学生に伝えられる実習教材の作成が必要
  - オンラインでは学生の達成状況を随時確認することが難しい
  - 詳細な実習目標の設定と評価スケジュールの設定が必要

日本では、感染状況によりオンラインと学内をミックスした実習方法が展開されていました。オンラインの教授内容は、高齢者施設内の日常生活（住環境、高齢者の安全を守る取り組み、高齢者の様子など）、看護師の役割（健康状態の観察、家族への支援、エンドオブライフ期の看護）、高齢者の事例による看護過程などでした。学生からは、施設を1

日見学したような体験だというポジティブな意見もありましたが、実際の患者の様子が想像できず、コミュニケーションや看護援助に不安を持つ学生の声も多く聞かれました。そこで、学内で病院・施設の類似環境を作り、看護過程の想定事例をもとに教員が模擬患者を担当し、学生が援助技術の演習を行いました。

インドネシアでは、感染症により臨地・学内も困難であり完全オンラインの実習方法が展開されていました。オンラインでは複数のソーシャルメディアを活用し、動画の活用やチュートリアルなどを行っていました。家族または自宅近くに居住する高齢者を対象として、看護過程を展開していました。また、未達成のコンピテンシーを特定し、状況に応じて強化するようにスケジュールを組んでいました。

両国共通の課題としては、オンラインでも工夫をすることで、看護過程を用いた思考過程や判断力のトレーニングは十分可能でした。しかし、自宅で準備できる物品を使用したオンライン演習では、実際に身体を使う看護技術の習得が困難でした。また、オンライン上の学生の到達度の評価が難しいことも示されました。

オンライン実習では、よりリアルに病院の環境や看護の実際を学生に伝えられる実習教材の作成が必要であることが分かりました。また、オンラインでは学生の達成状況を随時確認することが難しいため、細やかに評価できるように、詳細な実習目標の設定と評価スケジュールの設定が必要であることも分かりました。

## 今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画(具体的な数値を記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 令和2年度専門家Web会議を行い、ニーズ5項目以上を抽出する。うち、優先度の高い教育3項目程度及び目標を現地・本邦でのWeb研修に向けて設定する。</li> <li>2) 令和2年度に保健省・看護協会の推薦を受けた研修生(インドネシア看護教員・看護師2〜3名程度)が現地・本邦Web研修を受講する。</li> <li>・研修受講者の理解度・自信度の自己評価得点が10%以上向上する。</li> <li>・知識テスト、演習・発表・ディスカッションで「目標達成」と現地・本邦の講師により評価される。</li> <li>3) 令和3年度以降、Web研修修了生が現地でリーダー研修を教員・看護師計5名以上を行う。</li> <li>・リーダー研修受講者は実習指導スキルの理解度・自信の自己評価得点(事前・事後)が10%以上向上する。</li> <li>・他者評価(上司・患者・家族からの聞き取り、質的評価)も行い統合的に評価する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 令和2年度専門家Web会議で抽出された教育項目・目標に基づき、本邦・現地でのWeb研修を行う。</li> <li>2) 研修修了生は、専門家Web会議またはWeb研修で学んだ技術を用いて、以下を実施する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>a) 研修修了生1人当たり、2ケース以上の成人・高齢者の総合アセスメントと統合的ケアを実施する。                 <ul style="list-style-type: none"> <li>→自己評価レポートを提出する(質的評価)</li> </ul> </li> <li>b) 研修修了生1人当たり、学生2人以上に実習指導を行う。                 <ul style="list-style-type: none"> <li>→研修修了生に対する学生の評価が5段階で平均3.5以上となる。</li> </ul> </li> <li>3) 令和3年度以降、研修修了生は、日本の専門家派遣またはWeb研修で学んだ技術を用いて、                 <ol style="list-style-type: none"> <li>a) 研修修了生1人当たり、5人以上のリーダー研修を行う。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→リーダー研修受講生の理解度・自信度の自己評価が5段階で平均3.5以上となる。</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本研修参加による実習指導スキル向上が相手国の高齢者看護の技術水準向上に繋がる(高齢者アセスメントに基づく統合的ケアの実施割合向上)。その普及・発展に貢献する(上記を実施する施設が約5年で2倍増加する)。</li> <li>2) 本事業の研修技術の向上により、看護師・実習指導者のアセスメント項目や看護計画に下記項目が記載されるようになり、あるいは下記関連のアセスメントツールを臨床でも活用し、看護学生にも教えられるようになる。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 高齢者特有の老年症候群、例①誤嚥性肺炎、②褥瘡、③フレイル・サルコペニア、④転倒、⑤COVID-19関連影響のアセスメントとケアができる。</li> <li>(2) 高齢がん患者・脳卒中患者の⑤術後合併症(無気肺・感染・出血等)や⑥せん妄の早期発見ができるようになる。</li> <li>(3) 上記(1)(2)の成果を通して、①〜⑥に関するアセスメント・ケア・対処や予防に関する教育計画および実習指導案を立案することに繋がる。</li> </ol>             以上を通しインドネシアの看護学生の高齢者看護に関する資力が向上し、長期的に質の高い看護ケア提供により高齢者のQOL向上に資すると想定される。         </li> </ol>
実施後の結果(具体的な数値を記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 令和2年度にインドネシア保健省・看護協会の推薦を受け、または自薦の研修生(看護教員・看護師10名)をコメンターとして選出した。</li> <li>2) 専門家Web会議を計11回実施した。同国ニーズ調査の結果、優先度の高い教育項目に対し2目標を設定し、2日間のWeb研修を企画した。</li> <li>3) Web研修対象は看護教員・実習指導者で、応募者406名から地域・機関・職種を考慮し205名(教員140名、看護師65名)を選出。Webinar1日目1/24は179名、2日目1/31は172名が参加した。</li> <li>4) 事後調査(5段階リッカート尺度)の満足度(5点満点)は、内容4.6点、進行4.5点、講師4.5点、通信環境4.6点、全体4.6点であった。</li> <li>5) 理解度の確認テスト(15問・15点)は、平均9.1点、中央値10.0点、標準偏差3.7点であった。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) インドネシア看護協会より、同国看護師の5年毎免許更新に必要な25単位中6単位の教育単位SKPが承認され、両日参加の受講者154名に修了証を発行した。</li> <li>2) インドネシア老年看護協会会長より、Web研修のYouTube録画の動画公開、及び次年度の研修継続の要望を受けた。YouTube再生回数は動画リストごとに以下の通り(2月26日時点)。Day1開会式25回、①概要説明19回、②実習指導・評価12回、③コロナ下の実習13回、④老年看護学実習11回、Day2:①Recap from Day 1: 12回、②Prof. Dra.Junaiti: 11回、③Dr. Shinta: 13回、④グループワークと発表4回、⑤クイズ・閉会挨拶5回</li> <li>3) 研修終了後約1か月の経過であり、研修参加者が習得した知識や技術を用い、実習指導現場でどのような変容を達成したかの評価は困難であるため、次年度に追跡調査の実施を検討する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本研修参加による臨床・学内・オンライン実習による指導スキルの向上が、学内・オンラインでも臨床実習の代替・補充の手段として一定の効果を上げられるようにすることが期待される。また、Web研修や動画視聴により、老年看護の技術水準の向上、高齢者アセスメントに基づく統合的ケアの実施割合の向上が期待される(例:上記アセスメント・ケアの実施施設が5年で2倍増加するなど)。</li> <li>2) 実習指導者のアセスメント項目や看護計画に下記項目が記載されるようになり、下記関連のアセスメントツールを臨床で活用し、看護学生に教えられるようになることが期待される。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 高齢者特有の老年症候群、例①誤嚥性肺炎、②褥瘡、③フレイル・サルコペニア、④転倒、⑤COVID-19関連影響のアセスメントとケア</li> <li>(2) 高齢がん患者・脳卒中患者の⑤術後合併症(無気肺・感染・出血等)や⑥せん妄の早期発見</li> <li>(3) 上記(1)(2)の成果を通し、①〜⑥のアセスメント・ケア・対処や予防に関する教育計画および実習指導案を立案することが期待される。</li> </ol>             以上を通しインドネシアの看護学生および看護師の高齢者看護実践能力が向上し、長期的には質の高い看護ケアが提供でき、高齢者のQOL向上に資すると想定される。         </li> </ol>

今年度の成果指標として、アウトプット、アウトカム、インパクト指標は表の通りでした。

実施前は、実際に学生指導を行う実習指導者を想定し、学生への実施状況や学生・指導者の評価状況を想定したアウトプット、アウトカムを設定しました。

COVID-19の影響により、臨地(臨床)実習の多くが学内またはオンライン実習に切り替わったことにより、それらの指標の評価が難しくなりました。そのため、元々予定していた研修内容の、老年看護学実習の特徴、実習指導法・計画・評価法の概要の内容に加えて、学内・オンライン実習で、どのように効果的に工夫して臨地(臨床)実習の代替学習法を用意できるかという視点も加えて、Webinarを企画し実施しました。

Webinar参加者数や参加者の自己評価得点状況、また録画の動画再生

回数などを2月末時点で集計しました。今回は、Webinarの復習あるいは当日の通信環境が不良だった参加者の視聴に限られるため、10-20回前後の再生となっています。今後、インドネシア老年看護学会のサイトに動画を公開するなどし、より多くのインドネシア国の看護師に視聴してもらおう方向も検討中です。

また、本Webinarはインドネシアの看護師が、5年毎に免許更新する際に必要な25単位中6単位の教育単位SKPが承認されました。2日間のWebinarに両日参加した受講者154名に修了証を発行しました。

インパクト指標については、今後の中長期的な事業の及ぼす影響を超越した、想定・期待される成果です。高齢者に特有な看護の部分での研修達成度はさらに今後フォローアップしていき評価していく必要があります。

今年度の相手国への事業インパクト
<p><b>健康向上における事業インパクト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業で育成した保健医療従事者(数)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インドネシア保健省・看護協会の推薦を受け、または自薦の研修生(看護教員・看護師10名)をコメンターとして選出。Web会議を計11回実施し、ニーズ調査の結果、優先度の高い教育項目に対し2目標を設定し、2日間のWeb研修を企画。</li> <li>・ Web研修対象は看護教員・実習指導者で、応募者406名から地域・機関・職種を考慮し205名(教員140名、看護師65名)を選出。1日目1/24は179名、2日目1/31は172名が参加。</li> <li>・ インドネシア看護協会より、同国看護師の5年毎免許更新に必要な25単位中6単位の教育単位SKPが承認され、両日参加の受講者154名に修了証を発行した。</li> <li>・ インドネシア老年看護協会より、Web研修YouTube動画公開の要望があった。YouTube再生回数(2月26日時点): Day1開会式25回、①概要説明19回、②実習指導・評価12回、③コロナ下の実習13回、④老年看護学実習11回、Day2:①Recap from Day 1: 12回、②Prof. Dra.Junaiti: 11回、③Dr. Shinta: 13回、④グループワークと発表4回、⑤クイズ・閉会挨拶5回</li> <li>・ 同看護協会より、次年度研修継続の要望があった。研修終了後約1か月の経過であり、研修参加者が習得した知識や技術を用い、実習指導現場でどのような変容を達成したかの評価は困難であり、次年度に追跡調査を検討する。</li> </ul> </li> <li>● 期待される事業の被益人口(延べ数) [※数倍〜数十倍の可能性が想定される]             <ul style="list-style-type: none"> <li>→Webinar参加の実習指導者*、看護教員*の実習指導を受ける看護学生+患者</li> </ul> </li> </ul>

今年度の相手国への事業インパクトは、事業で育成した保健医療従事者(数)として、インドネシアの研修生(看護教員・看護師10名)をコメンターとして選出し、活動して頂きました。Web会議を計11回行い、ニーズ調査の結果、優先度の高い教育項目に対し2目標を設定し、2日間のWeb研修を企画しました。Web研修対象は看護教員・実習指導者で、応募者406名から地域・機関・職種を考慮し205名を選出しま

した。1日目(1/24)は179名、2日目(1/31)は172名が参加しました。

また、インドネシア看護協会より、同国看護師の5年毎免許更新に必要な25単位中6単位の教育単位SKPが承認され、両日参加の受講者154名に修了証を発行しました。

インドネシア老年看護協会より、Web研修のYouTube録画の動画公開の要望がありました。研修受講者のYouTube再生回数(2月末)は、Day1開会式25回、①概要説明19回、②実習指導・評価12回、③コロナ下の実習13回、④老年看護学実習11回、Day2:①Recap from Day 1: 12回、②Prof. Dra.Junaiti: 11回、③Dr. Shinta: 13回、④グループワークと発表4回、⑤クイズ・閉会挨拶5回でした。

同看護協会より、次年度の研修継続研修の要望がありました。研修終了後約1か月の経過であり、研修参加者が習得した知識や技術を用い、実習指導現場でどのような変容を達成したかの評価は困難なため、次年度に追跡調査を検討したいと考えております。

期待される事業の被益人口(延べ数)は未知数ですが、今回のWebinarに参加した実習指導者、看護教員の実習指導を受ける看護学生、およびそれに関連する患者と考えると、数倍・数十倍の可能性が考えられます。

#### これまでの成果(2020年度)

- ① Web会議を通じて、両国の看護学教育制度、老年看護学実習における教授法やバンデミック渦における取り組みや課題に関して相互理解を得ることが出来た。
- ② Webinar参加者数はDay1が179名、Day2が172名であった。両日参加した者154名にインドネシア看護協会の修了証を発行した。
- ③ 事後の調査結果(5段階リッカート尺度使用、5点満点)は、内容4.6点、進行4.5点、講師4.6点、通信環境4.6点、全体4.6点と高かった。
- ④ 理解度確認テスト結果(15問、15点)は、平均9.1点、中央値10点、標準偏差3.7点であった。トップ10名にドアブライズを授与するため、内容の難易度を高めに設定し、平均得点率が6割となった。
- ⑤ インドネシア看護協会より、Webinar参加が看護師継続教育単位として認定された。

#### 今後の課題

インドネシアにおける老年看護学ニーズは、急性期の入院ケアから地域包括的ケアを含む在宅医療まで存在している。また、教育機関と臨床実践に知識・実践・認識の一定の乖離が存在する。これらの解決に向けて、日本の在宅医療や高齢者施設・地域・病院における実習に適用可能な先進的な情報工学(VR等)の活用を取り入れた、老年看護学実習の指導者に必要な技能や要件に関するWebinarや指導者研修(Training of Trainers: TOT)や、多様なメディアを活用した学習方法の開発等が課題となる。

これまでの成果については、Web会議を通じて、日本とインドネシア両国の看護学教育制度、老年看護学実習における教授法やバンデミック渦における取り組みや課題に関して相互理解を得ることができました。また先も述べましたが、Webinar参加者数はDay1が179名、Day2が172名であり、両日参加した者154名にインドネシア看護協会の修了証を発行しました。

また、事後調査の結果として、5段階のリッカート尺度(5点満点)の平均は、満足度は内容が4.6点、進行4.5点、講師4.6点、通信環境4.6点、全体4.6点と、全般的に4.5~4.6点と9割近い満足度の評価でした。

事後調査の理解度の確認テストは、15問15点中、平均9.1点、標準偏差3.7点で、平均得点率は6割でした。しかし、今回は得点の高いトップ10名の受講者に副賞(ドアブライズ)を授与することで、受講・試験へのモチベーションを高める工夫をしましたので、少し難易度の高い問題も用意しました。また、二言語の翻訳・通訳の制約であったり、通信環境の影響で内容理解が十分でなかった可能性も考えられますので、今後の中長期的な評価も必要と考えております。

さらに、先も述べましたが、インドネシア看護協会より、研修参加者に看護師継続教育単位が承認されたことは大きな成果であったと考えます。

今後の課題として、以下が考えられました。まず、インドネシアにおける老年看護学のニーズは、急性期の入院ケアから地域包括的ケアを含む在宅医療まで存在しています。また、教育機関と臨床実践に知識・実践・認識について一定の乖離が存在しています。

これらの解決に向け、日本の在宅医療や高齢者施設・地域・病院における実習に適用可能な先進的な情報工学(VR等)の活用を取り入れた、老年看護学実習の指導者に必要な技能や要件に関するWebinarあるいは指導者研修(training of trainers: TOT)や、多様なメディアを活用した学習方法の開発等が今後の課題です。

#### 将来の事業計画

- 先進的な情報工学や多様なメディアを活用した臨地実習の学習法・指導法の開発:
  - 老年看護学実習の指導者および担当教員向け、日本の在宅医療や高齢者施設・地域・病院におけるオンライン・学内・臨地実習に適用可能な情報工学(VR等)、動画教材、電子または紙カルテの模擬画面等を活用した教育法を発展・普及させることができる。
  - 日本およびカウンターパートの現地で試行・体験・導入し、その実践を共有するWebinarや指導者研修を開催することで、老年看護実践能力の基盤となる知識・技術の習得し、あるいは実習の効果的な教授法、教育と臨床が連携した実習指導スキルの向上につながるものと期待される。
  - 特に、上記のVRや動画教材、カルテ模擬画面等について、場所や時間を問わず継続学習が可能となる方法やシステム(ログイン可能なWebポータルサイト等)を開発することで、看護学生および実習指導者・教員が老年看護の実習に関する最新情報に触れて知識を得ることができ、また教育機関と臨床(臨床)の知識・実践・認識のギャップを改善することができるものと期待される。

展開推進事業の目的に照らして、将来の事業計画の見込みは、先進的な情報工学や多様なメディアを活用した臨地実習の学習法・指導法の開発です。

老年看護学実習の指導者および担当教員向け、日本の在宅医療や高齢者施設・地域・病院におけるオンライン・学内・臨地実習に適用可能な情報工学(VR等)、動画教材、電子または紙カルテの模擬画面等を活用した教育法を発展・普及させることができるようになります。

日本およびカウンターパートのインドネシアの現地で試行・体験・導入し、その実践を共有するWebinarや指導者研修を開催することで、老年看護実践能力の基盤となる知識・技術の習得し、あるいは実習の効果的な教授法、教育と臨床が連携した実習指導スキルの向上につながるものと期待されます。

特に、上記のVRや動画教材、カルテ模擬画面等について、場所や時間を問わず継続学習が可能となる方法やシステム(ログイン可能なWebポータルサイト等)を開発することで、看護学生および実習指導者・教員が老年看護の実習に関する最新情報に触れて知識を得ることができ、また教育機関と臨床(臨床)の知識・実践・認識のギャップを改善することができるものと期待されます。